



2022年11月10日

各位

株式会社安評センター

## 当社とアンジェス株式会社との共同研究開発に関するお知らせ

当社は、2022年11月10日開催の取締役会において、以下のとおり、アンジェス株式会社（代表取締役社長 山田 英、大阪府茨木市、以下、アンジェス）との間で、薬剤スクリーニングを目的としたトランスジェニックゼブラフィッシュ\*モデル（以下、TGZF）に関する共同研究開発を行うことについて決議いたしましたので、お知らせいたします。

### 1. 共同研究開発の理由

当社は、設立来40年間に蓄積された実績、信頼を背景に、充実したGLP（Good Laboratory Practice：優良試験所基準）及びAAALAC（国際実験動物ケア評価認証協会）認証施設での高い科学性と信頼性に立脚した医薬品、食品、食品添加物、農薬、飼料添加物、一般工業化学物質等の化学物質の安全性試験のデータを提供、遺伝子破壊マウス作製受託、遺伝子改変マウスを用いた安全性試験受託を展開し、トランスジェニックグループの創薬支援事業の中核を担っております。また、当社は国内では数少ない水生動物を用いた農薬の登録申請に必要な環境毒性試験が実施可能な施設、研究員を有しており、高い受託実績を有しております。

一方、アンジェスはHGF（肝細胞増殖因子）遺伝子の血管を新生する作用を応用した医薬品開発を目指して1999年12月に設立され、世界初となる血管を新生する遺伝子治療用品、プラスミドDNA技術を用いた遺伝子治療薬を上市の実績を有し、遺伝子医薬技術を強みに新薬開発を進めています。

本共同研究開発は、ゼブラフィッシュを用いた創薬支援サービス体制構築を目的とする当社と株式会社MZTとの業務提携締結（『当社子会社の(株)安評センターと株式会社MZTとの業務提携契約締結に関するお知らせ』2022年10月20日付(株)トランスジェニック社リリース）を通じ導入した技術を用いてTGZFモデルを開発・作製し、アンジェスは当該TGZFモデルに対して開発中のNF- $\kappa$ BデコイオリゴDNA等開発候補の薬剤を提供することで、その有用性検証を行うというものです。

今後、当社は、当該TGZFモデルの完成の後に、当該TGZFモデルを用いた創薬スクリーニングサービスを広く展開する予定であり、また、アンジェスは当該TGZFモデルの開発過程から関与することで、医薬品開発技術の向上を図るなど、両社の企業価値の更なる向上を目指してまいります。

## 2. 共同開発の内容

当社は炎症性刺激による GFP 発現、および薬剤に対する反応性の確認が可能な TGZF モデルを製作し、アンジェスは開発候補の薬剤及び炎症に関連する薬剤を投与し TGZF モデルの有用性検証を行います。

## 3. アンジェスの概要

(1) 名 称	アンジェス株式会社
(2) 所 在 地	大阪府茨木市彩都あさぎ七丁目 7 番 15 号
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 山田 英
(4) 事 業 内 容	遺伝子医薬品の研究開発
(5) 資 本 金	33,360 百万円
(6) 設 立 年 月 日	1999 年 12 月

### ◆ご参考

#### ※ ゼブラフィッシュ

ゼブラフィッシュは、ヒトとゼブラフィッシュ間の疾患ゲノム類似性は約 80%などの特徴がありヒトへの外挿性が高く、スクリーニングが簡便なこともあり需要が高まっています。また、安評センタージェノミクス事業部の専門領域であるトランスジェニック（遺伝子改変）技術を応用したトランスジェニックゼブラフィッシュの開発や幅広いヒト疾患モデルなどの開発が進み、2021 年度 129 億円（1 USD=144JPY）から 2028 年には 334 億円に拡大すると予想されています（Global Information “ゼブラフィッシュの世界市場（2022 年）”引用）。

以 上